

北見工業大学学報

第 221 号 (2007 年 5 月号)

目 次

入 学 式	平成 19 年度入学式举行……………	2
告 辞	夢、努力、挑戦……………	3
入 試	平成 20 年度編入学学生募集要項の公表……………	5
	平成 20 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………	6
研 究 助 成	平成 19 年度科学研究費補助金交付内定……………	7
	平成 19 年度科学研究費補助金申請件数(5 月応募分)……………	9
	平成 19 年度(社)日本食品機械工業会 FOOMA 研究助成金交付決定……………	9
	平成 19 年度(財)池谷科学技術振興財団研究助成交付決定……………	9
	2007 度(財)畠山文化財団研究助成交付決定……………	9
	平成 19 年度共同研究の受入状況……………	10
	平成 19 年度受託研究の受入状況……………	11
	平成 19 年度奨学寄附金受入状況……………	11
受 賞	坂本名誉教授 科学技術賞(技術部門)を受賞……………	12
諸 報	名誉教授称号授与……………	13
	外部評価委員会を開催……………	13
	平成 19 年度構内美化作業始まる……………	14
	AED(自動体外式除細動器)の全学説明会を開催……………	15
	1 号館校舎改修完成記念式典を举行……………	16
	父母懇談会(春季)を開催……………	17
日 誌	4 月・5 月……………	18

=入学式=

平成 19 年度入学式挙行

(総務課)

平成 19 年度入学式が、4 月 5 日（木）午前 10 時から北見市民会館大ホールで行われました。

学長から、学部 419 人、学部編入学 7 人、学部再入学 1 人、大学院博士前期課程 121 人及び大学院博士後期課程 13 人の入学が許可された後、学長告辞、入学生代表宣誓及び役員紹介が行われ、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。



入学生代表宣誓

学部

学 科 名	入学者数 (人)
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	83
電 気 電 子 工 学 科	80
情 報 シ ス テ ム 工 学 科	63
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	60
機 能 材 料 工 学 科	53
土 木 開 発 工 学 科	80
合 計	419

大学院博士前期課程

専 攻 名	入学者数 (人)
機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻	24
電 気 電 子 工 学 専 攻	19
情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	19
化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻	10
機 能 材 料 工 学 専 攻	28
土 木 開 発 工 学 専 攻	21
合 計	121

学部編入学

学 科 名	入学者数 (人)
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	2
電 気 電 子 工 学 科	2
情 報 シ ス テ ム 工 学 科	1
土 木 開 発 工 学 科	2
合 計	7

大学院博士後期課程

専 攻 名	入学者数 (人)
シ ス テ ム 工 学 専 攻	10
物 質 工 学 専 攻	3
合 計	13

学部再入学

学 科 名	入学者数 (人)
電 気 電 子 工 学 科	1

= 告辞 =

夢、努力、挑戦

学長 常本秀幸

平成 19 年度、学部入学生、3 年次編入学・再入学生、大学院博士前期課程及び後期課程の学生、総数 561 人の入学を心より歓迎申し上げます。本日は、ご家族の方々を始め、沢山の方においでいただき、また、ご多用中にもかかわらず、学生後援会会長澤野様にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。近年理工系離れが話題になり、平成 19 年度の入試動向を心配しておりましたが、本学の応募者は他大学から問合せがあるくらい上昇し、本学のこれまでの取組が評価されたものと喜んでいきます。大阪に試験会場を設けたこともあって、学部 419 人の入学者の内、本州の学生が 50%を超えております。3 月 6 日、21 日の合格発表を受験生と一緒に見ていましたが、自分の番号を確認し、うれしそうな顔を見ていると私もうれしくなり、皆さんの夢の実現を応援しなくてはとの思いを強く持ちました。

さて、私の入学式の告辞、今年で 6 回目になります。学長の任期は、6 年間と決められておりますので、今回が最後です。記憶に残るメッセージを、と色々考えましたが、根っからの理系人間ですので、文学的な表現とか、クラーク博士の「Boys be ambitious」などという名言にはなりません、私の思いである「夢を持つこと、努力すること、挑戦すること」の大切さを伝えたいと思います。まず、私自身がどの程度夢を実現できたか話をしたいと思います。小中学校の頃に何になりたかったか、実はあまり覚えていません。ものづくりが好きで、高校では自分の適性は理系だと思い、大学は理系に進みました。その後、自動車に興味があったので機械系に進み、自動車会社に就職いたしました。きわめて単純な選択でしたが、小さな夢の第一歩がスタートしたと言えます。

私の夢は会社に入ってから広がりました。一つのきっかけは社長の訓示です。入社式での話

ですが、社長の訓示は、「与えられた仕事は何であろうと、会社で 1 番、日本で 1 番、世界で 1 番」を目指せということでした。幸い、与えられた仕事は花形のレース用エンジン開発で、パワーアップに貢献し鈴鹿サーキットに何度も通いました。その後は電子制御式エンジンの開発を担当し、そのエンジンを載せた車を日本で最初に発表しました。これで「日本で 1 番」は実現できたのではないかと考えています。もう一つの挑戦である世界で 1 番はどうなったかですが、実は 10 年で会社を辞めております。外国に移住することを考えていましたが、子供もおり妻の強い反対もありこれは実現できませんでした。運が良いことに、大学時代の恩師に本学での教員職を紹介いただき、無職を経験することなく大学の先生の道を歩み始めました。博士号を取ったら次の仕事をとっていましたが、結局、北見に根を下ろすことになり現在に至っています。しかし、世界で 1 番を忘れたわけではありません。幸い、多くの人がやっていた寒さに関するエンジン研究をテーマとしたこともあって、世界で 1 番とまでは言いませんが、評価をされるようになったと思っています。

自慢話をしたかったわけではありません。「夢を持つこと」と言いますが、私の場合は、子供のときに夢があり、それを実現するために挑戦し、努力したわけではありません。与えられた環境の中で常に夢を膨らませてきたように思います。皆さんの中には、本学が第一志望でなかった人、迷いながら現在の学科を選択した人などがいると思いますが、落胆することはないのです。与えられた条件の中で夢を膨らませることが重要です。小さな夢でもいいと思います。前向きになること、その夢に向かって努力することです。実は、今年社会人で博士後期課程に入学する私の研究室の教え子がいます。

25 年前の卒業生ですが、彼はホンダを目指しましたが残念ながら採用されませんでした。結局、自動車とは関係のない中規模の会社に入りました。その後、求人活動で大学に来たときだと思いますが、技術士の資格を取ったと聞き驚きました。不本意だった会社で、夢を持って仕事をしてきているのが嬉しかったことを覚えています。その時、次は博士を目指そうね、と冗談半分で言ったのが、今年から挑戦してくれることになりました。このように、多くの場合、子供の時からの夢が実現できるのではないと思います。「努力の先にこそ夢が生まれる」と信じています。「夢を持つこと、努力すること、挑戦すること」を忘れないで、有意義な大学生活を送ってください。

もう一つお願いがあります。私が最近非常に気になっているのが、「人と人の絆」が薄らいでいることです。寮生あるいは課外活動に参加している学生はそれなりの仲間の輪を持っていますが、人との交流を避ける学生が多くなっています。最近良く報道される「いじめ問題、子供が親を殺す、親が子を殺す」、これらの事件の多くも「人と人との絆」の欠如から来ています。大学の場合、友達との絆ができていないクラスは、留年率が高いなど学業面でも悪い結果が出ています。新しい環境の中で4年間を共にする仲間、先輩、教職員等との出会いが入学式です。一期一会という言葉がよく使われますが、人との出会いを大切にしてください。大学

は、皆さんが集まって話をする「場」を増やしています。メール時代ですが、仲間との交流は”Face to face” 「生の声」、「体の温もり」を感じて話し合ってください。また、1週間に一度くらい、メールゼロの日が必要ではないかとも思っています。

少し話が長くなりましたが、本学が重点的に取り組んでいるのは「魅力ある教育」、そして「魅力ある研究」の継続的な発信です。入学前、私からの手紙で現在の取組はお知らせしましたが、その後の動向などについて説明致します。一つは、平成20年度からは、学科の構成が変更になります。また、嬉しいニュースが2つあります。一つは、校舎の改修を機会に、環境に関する活動を評価する国際規格のISO14001認証取得に取り組んでいましたが、この3月、道内国立大学で初めて取得できました。もう一つは格付け評価です。大学の財務面、大学の教育研究の将来性を評価するもので、本学は、20段階ある評価の上から3番目の「AA」という高い評価を得ることができました。企業で言うと優良企業とのお墨付きをもらったことになります。

最後に、このように大学も色々なことに挑戦、努力をしていますが、それが成果となるかどうかは皆さん次第です。北見工業大学の学生は元気があると言われることです。より良い母校を作るため、共に努力することをお願いし、告辞といたします。



= 入 試 =

平成 20 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 20 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選抜の種類	推薦による選抜・学力試験による選抜・社会人特別選抜
学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 推薦による選抜 10 人 学力試験による選抜及び社会人特別選抜 若干人
出 願 資 格	推薦による選抜 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 20 年 3 月卒業見込みの者 学力試験による選抜 (1) 大学を卒業した者又は平成 20 年 3 月卒業見込みの者 (2) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 20 年度 3 月卒業見込みの者 (3) 修業年限 4 年以上の他の大学に 2 年以上在学している者又は在学した者 ただし、一つの大学に 2 年以上（休学期間を除く。）在学し、62 単位以上修得した者又は平成 20 年 3 月までに修得見込みの者（平成 20 年 3 月までに 2 年間以上在学となる者を含む。）等 社会人特別選抜 入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの (1) 理工系の高等専門学校を卒業した者 (2) 理工系の短期大学を卒業した者 (3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者
出 願 期 間	推薦による選抜・社会人特別選抜 6 月 1 日（金）～6 月 6 日（水） 学力試験による選抜 6 月 21 日（木）～6 月 25 日（月）
試 験 日	学力試験による選抜 7 月 4 日（水） 社会人特別選抜 6 月 13 日（水）（面接）
合 格 発 表	推薦による選抜・社会人特別選抜 6 月 20 日（水） 学力試験による選抜 7 月 11 日（水）

平成 20 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 20 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 19 年度大学院秋季入学の学

生募集要項も同時に公表され、平成 20 年度入試の第一次募集と同一日程で実施されます。

	博士前期課程			博士後期課程		
専攻	機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻			システム工学専攻 物質工学専攻		
選抜の種類	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 学部3年次学生を対象とする選抜			一般選抜 社会人選抜 外国人留学生選抜		
募集人員	・一般選抜 機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻 ・社会人特別選抜 各専攻とも若干人 ・外国人留学生特別選抜 各専攻とも若干人 ・学部3年次学生を対象とする選抜 各専攻とも若干人	第1次	第2次	システム工学専攻 物質工学専攻	第1次	第2次
		16人 16人 16人 14人 10人 20人	各専攻とも若干人		7人 5人	各専攻とも若干人
出願資格	大学を卒業した者又は平成20年3月までに卒業見込みの者 等			修士の学位を有する者又は平成20年3月までに取得見込みの者 等		
出願期間	第1次募集 平成19年7月2日(月)～7月6日(金) (出願資格の事前審査受付 平成19年6月4日(月)～平成19年6月11日(月)) 第2次募集 平成20年1月15日(火)～1月18日(金) (出願資格の事前審査受付 平成19年12月3日(月)～平成19年12月6日(木))					
試験日	第1次募集 学力試験 平成19年8月20日(月) 面接試験 平成19年8月21日(火) 第2次募集 学力試験 平成20年2月7日(木) 面接試験 平成20年2月8日(金)			第1次募集 面接試験 平成19年8月22日(水) 第2次募集 面接試験 平成20年2月7日(木)		
合格発表	第1次募集 平成19年9月5日(水) 第2次募集 平成20年2月20日(水)					

= 研究助成 =

平成19年度 科学研究費補助金交付内定

(研究協力課)

○特定領域研究(計画研究)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機械システム工学科	教 授	大 橋 鉄 也	巨大ひずみ導入のダイナミクスと組織形成	14,300千円 (平成20年度 12,200千円)		○

○特定領域研究(公募研究)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機 能 材 料 工 学 科	准 教 授	村 田 美 樹	ケイ素-水素結合活性化に基づく触媒的炭素-ケイ素結合形成反応	2,300千円	○	

○基盤研究(A)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機 能 材 料 工 学 科	教 授	青 木 清	耐水素脆化性に優れた複相型水素透過合金の設計と組織制御	6,000千円 (平成20年度5,300千円)		○
未利用エネルギー 研 究 セ ン タ ー	教 授	庄 子 仁	水底表層ガスハイドロートの物性とその再生可能性の解明	4,600千円 (平成20年度 4,600千円) (平成21年度 5,000千円)		○
土 木 開 発 工 学 科	教 授	高 橋 修 平	「知床」の雪氷環境・防災に関する研究	17,800千円 (平成20年度 8,400千円) (平成21年度 6,300千円) (平成22年度 3,200千円)	○	

※別途、間接経費8,520千円配分

○基盤研究(B)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
土 木 開 発 工 学 科	教 授	榎 本 浩 之	北海道東部における雪氷災害のマイクロ波遠隔計測および予測システムの開発	1,100千円		○
土 木 開 発 工 学 科	教 授	山 下 聡	浅層型メタンハイドレート地盤の地盤工学的評価に関する研究	6,200千円 (平成20年度 2,400千円)		○
情報システム工学科	教 授	三 浦 則 明	太陽multi-conjugate補償光学系の開発と効果の検証	7,700千円 (平成20年度 4,000千円) (平成21年度 1,600千円)	○	
土 木 開 発 工 学 科	教 授	川 村 彰	ヒューマン・インターフェースを用いた性能照査型路面評価システムの開発	7,800千円 (平成20年度 4,100千円) (平成21年度 1,900千円) (平成22年度 1,600千円)	○	

※別途、間接経費6,840千円配分

○基盤研究(B)海外学術調査

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
土 木 開 発 工 学 科	教 授	高 橋 修 平	国際極年における東シベリアの水河分布調査および雪氷学的観測	1,300千円		○

※別途、間接経費390千円配分

○基盤研究(C)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
化学システム工学科	准 教 授	中 谷 久 之	超臨界二酸化炭素溶媒を利用したリサイクルポリプロピレンの高機能化の研究	500千円		○
電 気 電 子 工 学 科	准 教 授	武 山 真 弓	次世代Cu/low-k材料間の極薄バリアを用いた安定な界面形成のための基礎的検討	600千円		○
情報システム工学科	助 教	曾 根 宏 靖	光シンセサイザーを用いたスーパーコンティニウムスペクトル制御に関する研究	400千円		○
電 気 電 子 工 学 科	准 教 授	柏 達 也	ITSを目的とした自動車搭載アンテナシステムの開発に関する研究	600千円		○
機械システム工学科	准 教 授	鈴 木 聡 一 郎	積雪・寒冷地域における高齢者のすべり転倒防止・ダメージ軽減システムの開発	1,300千円		○
化学システム工学科	准 教 授	岡 崎 文 保	ジメチルエーテル燃料大型ディーゼルエンジン用新規排ガス浄化触媒の開発	1,100千円 (平成20年度 1,000千円)		○
情報システム工学科	教 授	三 波 篤 郎	非線形系の記号力学系による表現可能性	1,100千円		○
化学システム工学科	教 授	福 井 洋 之	相対論的效果を考慮した核磁気共鳴スペクトルパラメータの理論計算	500千円 (平成20年度 500千円) (平成21年度 500千円)		○
機 能 材 料 工 学 科	教 授	阿 部 良 夫	スパッタリング法による電気化学的に活性な水和酸化物及び水酸化物薄膜の作製	700千円		○
電 気 電 子 工 学 科	教 授	細 矢 良 雄	地域気候パラメータを考慮した降雨時伝搬特性の世界的推定法の研究	500千円 (平成20年度 200千円)		○
化学システム工学科	教 授	多 田 旭 男	カーボンナノファイバー系耐熱性電磁波吸収体の新製法	1,400千円		○
機械システム工学科	准 教 授	三 木 康 臣	ササを原料としたペレット燃料成型とその光触媒担持体の開発	100千円		○
化学システム工学科	教 授	鈴 木 勉	木質由来原料からの結晶性メソ孔炭素の製造と炭素電極としての応用	1,200千円 (平成20年度 1,000千円)		○
情報システム工学科	准 教 授	早 川 吉 彦	顎関節部を重視したCT及びMR画像に基づく顎骨の個体別有限要素モデリング	1,200千円 (平成20年度 600千円)		○
情報システム工学科	教 授	藤 原 祥 隆	確率的推論を基礎とする授業適応化法と支援要求推定法を備えた対面教育支援システム	2,100千円 (平成20年度 1,400千円)	○	

機器分析センター	准教授	南 尚 嗣	海底表層メタンハイドレート起源の化学的解析	1,500千円 (平成20年度 2,000千円)	○	
土木開発工学科	准教授	堀 彰	X線回折法によるドームふじ氷床コアの結晶組織と転位密度の研究	2,800千円 (平成20年度 700千円)	○	
電気電子工学科	教授	野 矢 厚	極微細銅配線のための新しい化合物バリア材料の検討	2,000千円 (平成20年度 900千円) (平成21年度 700千円)	○	
土木開発工学科	教授	鮎 田 耕 一	寒冷地海洋環境下に20年間暴露したコンクリートの物性変化と耐凍害性評価	2,100千円 (平成20年度 1,300千円)	○	
土木開発工学科	教授	中 山 恵 介	斜面に連続的に作用する内部ケルビン波により誘起される水平循環メカニズムの解明	1,600千円 (平成20年度 1,100千円) (平成21年度 800千円)	○	

※別途、間接経費6,990千円配分

○萌芽研究

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
情報システム工学科	准教授	原 田 康 浩	非整数次フーリエ変換に基づく数値的フレネル変換アルゴリズムの開発と応用	1,700千円 (平成20年度 600千円)		○
機械システム工学科	助 教	遠 藤 登	内水面中溶存メタン生産過程および大気とのメタン交換過程に関する研究	500千円 (平成20年度 500千円)		○
電気電子工学科	准教授	川 村 武	暴風雪悪視界下の車両ナビゲーションシステムの開発研究	600千円		○
機能材料工学科	准教授	川村 みどり	自己集合単分子膜を利用した銀薄膜の安定化	1,700千円 (平成20年度 600千円)	○	

○若手研究(A)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
機能材料工学科	准教授	石 川 和 宏	非Pd系水素透過合金の強加工による組織の異方化と高性能化	13,200千円 (平成20年度 3,800千円) (平成21年度 3,200千円)	○	

○若手研究(B)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
共通講座	准教授	土 橋 善 仁	統語部門と音韻部門の関係	500千円 (平成20年度 100千円)		○
土木開発工学科	准教授	宮 森 保 紀	低温仮動的試験システムの開発と免震橋梁の低温地震応答特性の解明	1,300千円		○
共通講座	准教授	福 士 航	王政復古期文学の変容と〈他者〉表象の関連についての研究	600千円 (平成20年度 600千円)	○	
未利用エネルギー研究センター	准教授	八 久 保 晶 弘	天然ガスハイドレート潜熱のガス組成依存性	2,300千円 (平成20年度 1,000千円)	○	
情報システム工学科	准教授	原 田 建 治	コロナ帯電を用いたガラスへのホログラム記録	1,200千円 (平成20年度 600千円) (平成21年度 700千円) (平成22年度 700千円)	○	
機械システム工学科	准教授	林 田 和 宏	DPSSレーザを用いた高速度時系列計測が可能なナノPM前駆体診断システムの開発	3,000千円 (平成20年度 500千円)	○	

平成19年度 科学研究費補助金申請件数（5月応募分）

（研究協力課）

学科等 研究種目等	機械システム		電気電子		情報システム		化学システム		機能材料		土木開発		共通講座		センター等		合 計	
	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円
若手研究(S)											1	100,000					1	100,000
若手研究 (スタートアップ)													1	2,900			1	2,900
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100,000	1	2,900	0	0	2	102,900

※備考 金額は申請額

平成19年度（社）日本食品機械工業会 F O O M A 研究助成金交付決定

（研究協力課）

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	熟練技術の継承を目指した知識情報処理に基づく発酵乳製品製造プロセスの制御	500千円
				(18年度からの継続課題)

平成19年度（財）池谷科学技術振興財団 研究助成交付決定

（研究協力課）

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	准教授	兼清 泰正	ボロン酸を用いた糖応答性色素放出機能ポリマーから成るナノ薄膜の形成による光学的グルコース検出チップの作製	1,500千円

2007年度（財）畠山文化財団 研究助成交付決定

（研究協力課）

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
化学システム工学科	教 授	鈴木 勉	木質バイオマスの触媒炭化による高導電性炭素の製造	1,000千円

平成19年度共同研究の受入状況

平成19年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
土木開発工学科	准教授	三上修一	高機能樹脂エポキシ樹脂 (ADOX1550) 寒冷地性能試験に関する研究	日本アドックス株式会社
機器分析センター	准教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市
土木開発工学科	准教授	永禮 英明	下水汚泥土壌中の肥効成分の定量に関する研究	斜里町役場
土木開発工学科	准教授	永禮 英明	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する研究	美幌町役場
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	Web2.0における個人情報コントロールに関する研究	株式会社 エストコスモ
土木開発工学科	教授	川村 彰	積雪悪路の形成メカニズムと乗心地への影響	株式会社 ワーカム北海道
オホーツク地域環境 保全研究推進センター	センター長 教授	多田 旭男	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びに ごみ質調査共同研究	北見市
電気電子工学科	教授	田村 淳二	風力発電システムの制御技術に関する研究	株式会社日立製作所
化学システム工学科	教授	多田 旭男	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対 策協議会
機能材料工学科	准教授	宇都 正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性試験研究	ホクレン包材株式会社
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	下水汚泥及び放流水から発生する臭気成分の 定量に関する研究	北見市企業局
化学システム工学科	教授	堀内 淳一	嫌気性消化汚泥の効率的コンポスト化に関する 研究	北見市企業局
機能材料工学科	教授	増田 弦	北見市における下水汚泥・放流水中の微量成分 の長期モニタリングに関する研究	北見市企業局
土木開発工学科	教授	榎本 浩之	マイクロ波／ミリ波を用いた遠隔雪氷観測シ ステムの開発	三菱電機特機システム 株式会社
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	北見地区スクラムミックスセンターから発生 する臭気成分のモニタリング	北見市企業局
オホーツク地域環境 保全研究推進センター	センター長 教授	多田 旭男	北見市環境調査研究 (大気、水質、騒音・振 動、臭気、ダイオキシン類)	北見市
土木開発工学科	准教授	永禮 英明	寒冷地における下水汚泥の有効利用に関する 研究	北見市企業局
化学システム工学科	教授	鈴木 勉	木タール配合炭ボードの海藻着生基材としての 利応用	R I S C A R B O (株)
土木開発工学科	教授	佐渡 公明	サロマ湖の流域負荷量推定と水質・底質への 影響評価	(社)北海道栽培漁業 振興公社
化学システム工学科	教授	多田 旭男	バイオメタンガスから水素とナノカーボンの 製造	(株)E・C・O
土木開発工学科	教授	大島 俊之	橋梁マネジメントシステムの開発に関する研 究	(財)北海道道路管理技 術センター
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	熱応力緩衝機能材料に関する共同研究	日産自動車(株)総合研 究所
土木開発工学科	准教授	桜井 宏	木材繊維セルロースを利用したコンクリートの 品質改善の研究	小倉貿易 札幌支店
土木開発工学科	教授	大島 俊之	橋梁用耐震緩衝機能装置の低温下における機 能特性の研究 (Phase2)	(株)ブリヂストン 免震開発部
国際交流センター	准教授	菅野 亨	ペーパーラッジ炭化物の高付加価値化に関 する研究	道栄紙業(株)
化学システム工学科	准教授	中谷 久之	鉄担時処理により得られる発色意匠木炭の発 色構造形成反応に関する研究	(株)福地工業
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	鉄担時処理により得られる発色意匠木炭の発 色構造に関する研究	(株)福地工業
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	寒冷地域での将来モビリティ社会に関する課 題探索研究	日産自動車(株)総合研 究所
情報システム工学科	准教授	吉田 秀樹	音声組み換えソフトウェア (音声積み木) の 開発	(株)福地工業

平成19年度累計46件

平成19年度受託研究の受入状況

平成19年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
土木開発工学科	准教授	早川 博	北方圏での分布型流出モデルの開発と適用	(独) 科学技術振興機構	780,000

平成19年度累計 5件

平成19年度奨学寄附金受入状況

平成19年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
機械システム工学科	准教授	三木 康臣	解体材を原料としたペレット燃料の研究	三基開発(株)	10,000
化学システム工学科	教授	堀内 淳一	研究助成のため(研究テーマ「熟練技術の継承を目指した知識情報処理に基づく発酵乳製品製造プロセスの制御」)	(社)日本食品機械工業会	500,000
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	貴金属触媒の基礎的研究に対する研究助成費	田中貴金属工業(株)	500,000
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	工学研究助成のため	(株)エストコスモ	500,000
機能材料工学科	教授	青木 清	貴金属ろう材料の研究助成費	田中貴金属工業(株)	500,000
機械システム工学科	教授	大橋 鉄也	大橋教授の計算工学による組織と特性予測技術に関する研究助成	(社) 日本鉄鋼協会	225,000
	学長	常本 秀幸	学生の進路指導、大学説明会等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	2,000,000
化学システム工学科	准教授	兼清 泰正	研究助成のため	(財)池谷科学技術振興財団	1,500,000
化学システム工学科	教授	鈴木 勉	「木質バイオマスの触媒炭化による高導電性炭素の製造」に対する研究助成のため	(財)畠山文化財団	1,000,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	道路構造の防災対策の検討	(財)北海道道路管理技術センター	300,000
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	道路構造の防災対策の検討	(財)北海道道路管理技術センター	300,000
化学システム工学科	准教授	三浦 宏一	工学研究のため	(有) ホクトム	500,000
技 術 部	技術部員	岡田 包儀	ハンマーによる寒冷地コンクリート構造物の機能診断手法の技術指導	日東建設(株)	550,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	橋梁用ゴム部材耐震機能装置の低温条件下における機能特性の研究	(株)ブリヂストン	400,000

平成19年度累計 15件

= 受賞 =

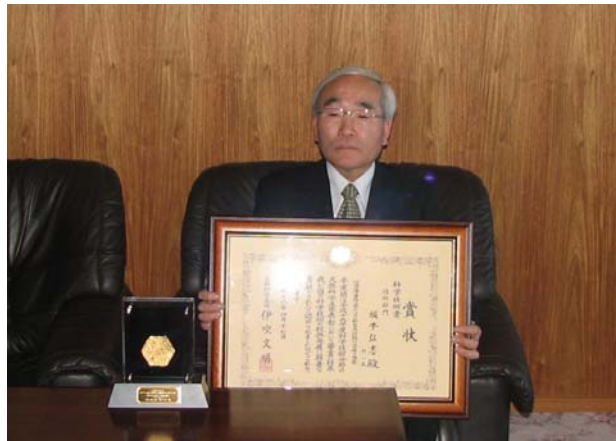
坂本名誉教授 科学技術賞（技術部門）を受賞

（企画広報課）

このたび、本学坂本弘志名誉教授が、平成 19 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰、科学技術賞（技術部門）を受賞されました。

科学技術分野の文部科学大臣表彰とは、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成績を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的としたもので、その中でも、科学技術賞の技術部門は、中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した者を対象に授与されるものです。

受賞対象研究は、マルエイ三英㈱取締役総括部長 村上正幸氏と共同開発したもので、概要は以下の通りです。



科学技術賞（技術部門）を受賞した坂本名誉教授

「吹雪障害防止のための新型高性能防雪柵の開発」

業績：

積雪寒冷地での冬期間の道路交通障害や事故の大部分は、吹雪障害によって誘発される。これを防止する上で、これまで吹払い式防雪柵及び吹止め式防雪柵が用いられてきていた。しかし従来の吹払い型では道路中央部付近からの吹雪流の巻き上がり、吹止め型では柵風上側の堆雪による性能の急激な低下等の多くの問題を有していた。

本開発は、従来型防雪柵が有する問題を解決する上で、高性能の防雪柵を考案し、実用化を図ったものである。開発された防雪柵は、吹雪の吹払い能力を従来型に比べて数段向上させた吹払い型、吹払いと吹止めの両機能を有する複合型、吹雪流を柵風下側に吹払う飛翔型、及び風向の変化に柔軟に対応できる斜風対応型である。いずれの防雪柵も風洞モデル実験、並びに野外実証試験によって、高い性能を有することが立証され、実用化された。

本開発により、冬期間の道路の安全走行を従来に比べて数段向上させ、吹雪障害による交通事故を大幅に低減させることができた。

本成果は、吹雪障害による交通事故を防ぎ、冬期の道路網を確保するという観点から、社会的に極めて貢献度の高いものである。また道路輸送に大部分が依存している現在、冬期間の道路交通環境の向上化を図ることによって、地方の産業の発展と新産業の創出に寄与している。

= 諸報 =

名誉教授称号授与

(総務課)

4月11日(水)開催の教育研究評議会において、本年3月31日付けで定年退職された本学元教授の坂本弘志氏、海老江邦雄氏、森訓保氏の3氏に対して、本学名誉教授の称号を授与することが承認され、4月27日(金)学長室において、常本学長から名誉教授の称号が授与されました。



前列左から坂本弘志氏、常本学長、海老江邦雄氏、森訓保氏

外部評価委員会を開催

(企画広報課)

去る4月18日(水)に本学第1会議室において外部評価委員会を開催しました。外部評価委員は高等専門学校、高等学校、官庁、民間企業所属の6名で構成されており、学外からの視点で、今回は主に教育活動を中心に評価を依頼したものです。

当日は常本学長から本学の現況等について説明の後、学内施設見学及び授業見学が行われました。全体会議では各委員から大変貴重な提言等が数多く寄せられ、活発な意見交換が行われました。



全体会議



田牧評価担当副学長(右)から説明を受ける
岩館委員(左)と深野委員(中央)

平成 19 年度 構内美化作業始まる

(施 設 課)

今年も学生及び教職員が実施する構内美化作業の季節となりました。

第1回目となった5月8日(火)は、連休明けのあいにくの天候にもかかわらず、昨年を上回る総勢約200名の教職員及び学生が参加し構内全域のゴミ拾いを行いました。

今年は例年と異なり、作業時間を学生が積極的に参加しやすい昼休みの時間帯に設定したことが、参加者を大幅に増加させた理由となりました。

作業に先立ち、IS014001 宣伝用ジャンパーを身にまとった常本学長の「ゴミのないきれいなキャンパスを」との呼びかけに、集まった学生達から歓声が上がる場面もあり、IS014001 取得による環境への関心の大きさ

が垣間見られました。

その後、教職員及び学生達は構内の所定の場所へ移動してゴミを拾いました。各々のゴミ袋に雪解けあとのゴミを一杯詰めて集合場所に戻って来た学生達は、持ち帰ったゴミを職員の指導のもと悩みながら自ら分別し、この日の作業を終了しました。

構内美化作業は、10月下旬まで毎月2回のペースで続けることが決まっており、期間内には、地域との連携を深めるため、北見クリーン作戦にも積極的に参加し、通学路及び付近公園内のゴミ拾いを実施する予定です。



美化作業前の学長の挨拶



学生と教職員が一体となってごみ拾い

AED（自動体外式除細動器）の全学説明会を開催

（施 設 課）

5月16日（水）メーカーから講師を招き、全学教職員を対象としたAED（自動体外式除細動器）の取扱説明会が開催されました。

AEDとは、突然の心停止から命を救うための装置で、2004年の法改正により一般市民でも扱えるようになり、現在では公共機関に数多くの設置が普及しているものです。

この日は構内にAED3台が設置されたことに伴い開催されたもので、約150人が集まり、ビデオや模擬装置を用いた丁寧な説明に参加者は真剣に耳を傾けていました。

今後はAEDの設置数を増加させると共に、年数回、教職員及び学生を対象に消防署の協力を得て、普通救命講習とあわせた講習会を開催する予定です。

また、AEDの設置を学内にアピールするため、設置場所附近の玄関には、AED設置を印象づけるオリジナルのデザインマットを敷くことを考えています。



緊張した面持ちで説明を受ける教職員

1号館校舎改修完成記念式典を挙行

(施 設 課)

5月17日(木)新たな機能を持つ図書館の増築部分で、文部科学省、北見市及び多くの関係者が出席し、1号館校舎改修完成記念式典が挙行されました。

今回の式典は、平成16年度補正予算及び平成17年度補正予算で執行された1号館校舎改修及び図書館の一部増改修工事が無事に完了したことを記念して開催されたものです。

式典後、来賓の方々には新しく生まれ変わった1号館校舎を見学していただき、明るくきれいになった講義室及びワンストップサー

ビスを目的とした学生支援スペースでは立ち止まり、多くの質問が出されました。

また、特に学生の憩いの場として配置されたコミュニケーションアトリウムでは、ゆとりある多目的スペースにお褒めの言葉をいただきました。

その後、祝賀会が開催され、文部科学省文教施設企画部施設企画課 笠原企画調整官から祝辞をいただき、1号館校舎改修等の完成を祝いました。



図書館コミュニケーションホールにて式典を挙行

父母懇談会（春季）を開催

（学生支援課）

例年、春・秋に開催している「父母懇談会（春季）」を、5月27日（日）北海道大学学術交流会館を会場として実施しました。

当日は、83組126名の父母が参加し、大島副学長からは「本学の使命とその特色について」として現在、大学に求められている課題を中心に、小林副学長からは「高等教育における北見工業大学の取り組みの現状と目標」、学生後援会会長からは「後援会の活動状況など」について説明がありました。

その後、各学科、専攻に分かれて行われた

個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職問題等について質問が出され、熱心にやりとりが交わされました。

また、個別面談までの待ち時間には大島副学長、小林副学長により、父母との質疑応答等の時間が設けられ、大学生活の内容や学生を取りまく生活環境に焦点がおかれた質問や、学生が就職をするにあたって必要となるであろう基本的事項や情報収集、また資格試験の取得に関する質問が寄せられました。



全体説明会の様子

4 月	5 月
3 日 教授会	8 日 企画運営会議、役員会
4 日 大学評価委員会	7 日 国際交流委員会
5 日 入学式	9 日 教育研究評議会
6 日 新入生ガイダンス	12 日 野草観察会
9 日 前期授業開始	14 日 企画運営会議
企画運営会議	15 日 入学者選抜委員会
11 日 教育研究評議会	広報委員会
入試企画センター運営会議	16 日 研究科委員会
12 日 発明審査委員会	発明審査委員会
18 日 外部評価委員会	17 日 1号館校舎改修完成記念式典
19 日 学生委員会	18 日 コーチング研修
入試企画センター運営会議	留学生新入生歓迎会
25 日 平成18年度業務監査	21 日 学生委員会
26 日 大学評価委員会	22 日 教務委員会
地域連携推進委員会	27 日 父母懇談会（春季）札幌
地域共同研究センター推進協議会	29 日 北見市産学官連携推進協議会
27 日 教務委員会	30 日 北見医工連賞贈呈式
入試企画センター運営会議	